

# すむ・すむ 西伊豆

静岡県西伊豆町 移住定住ガイドブック



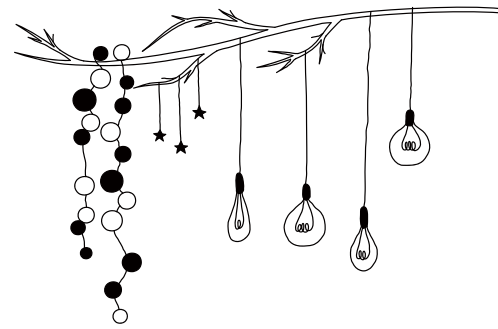


撮影地：黄金崎

# すむすむ西伊豆

静岡県西伊豆町 移住定住ガイドブック

2023年3月発行



C  
O  
N  
T  
E  
N  
T  
S

## 03. 町概要

## 04. 移住者インタビュー

Interview 01 堤 圭祐 (Iターン/わさび農家)  
「田舎と呼べる場所への憧れ」

家族で移住

Interview 02 山本 敏彦 (Uターン/理学療法士) 山本 渚 (Iターン/看護師)  
「俺、西伊豆に帰ろうと思う。」

夫婦で移住

Interview 03 福本 初夏 (Iターン/西伊豆町地域おこし協力隊)  
「いいじゃん、応募しちゃいなよ！」

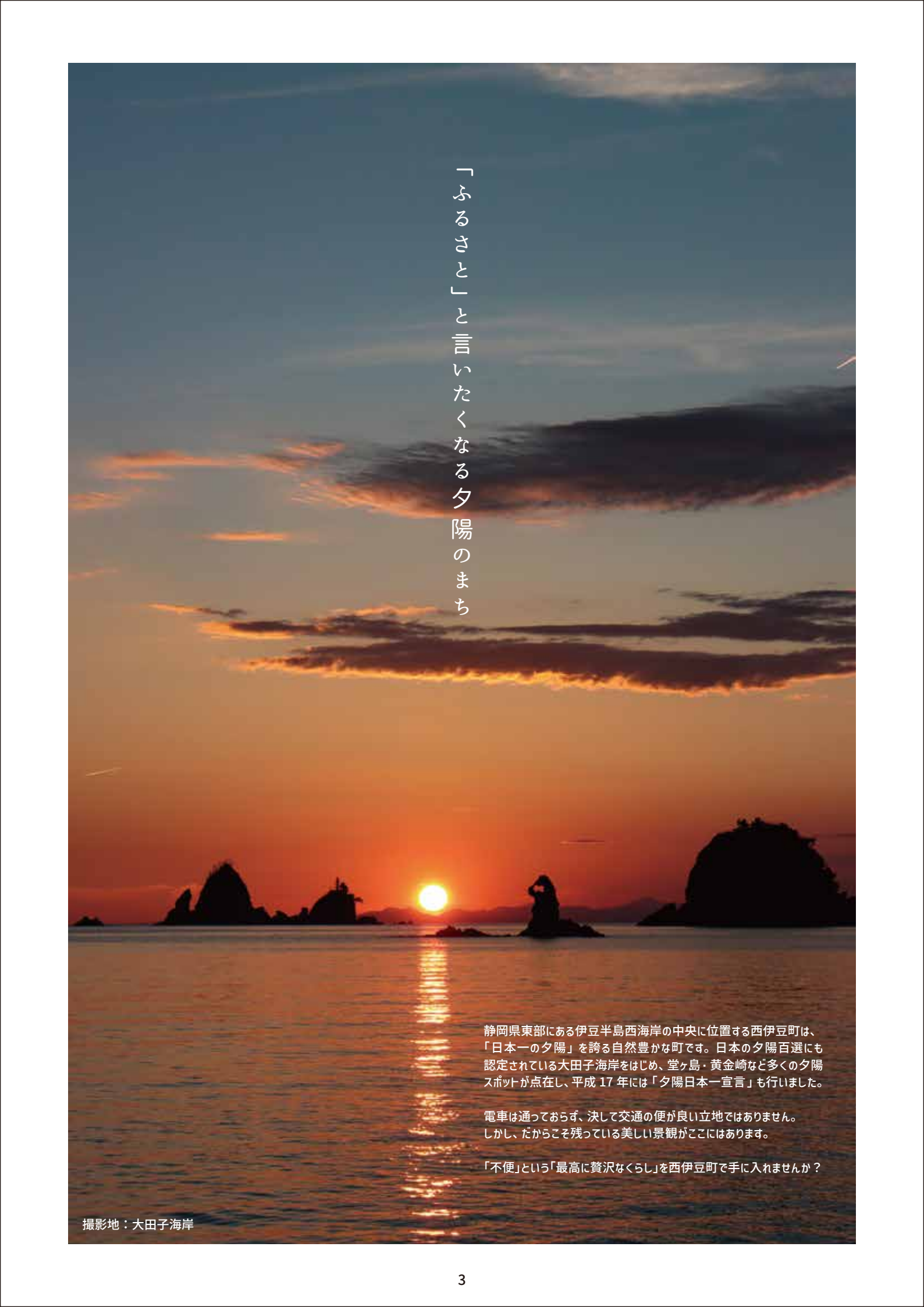
単身で移住

## 09. 地域おこし協力隊 概要・募集

## 10. 地域コミュニティ紹介

## 12. 移住 Q&A

## 14. 移住情報

A vertical photograph of a sunset over the sea. The sun is a bright orange circle on the horizon, with its light reflecting as a shimmering path on the water. The sky is a mix of orange, yellow, and blue, with scattered clouds. In the foreground, several dark, jagged rock formations are silhouetted against the bright sky. One rock in the center-right has a person sitting on it, looking out at the sea. The overall mood is peaceful and scenic.

「ふるさと」と言いたくなる夕陽のまち

静岡県東部にある伊豆半島西海岸の中央に位置する西伊豆町は、「日本一の夕陽」を誇る自然豊かな町です。日本の夕陽百選にも認定されている大田子海岸をはじめ、堂ヶ島・黄金崎など多くの夕陽スポットが点在し、平成 17 年には「夕陽日本一宣言」も行いました。

電車は通っておらず、決して交通の便が良い立地ではありません。しかし、だからこそ残っている美しい景観がここにはあります。

「不便」という「最高に贅沢なくらし」を西伊豆町で手に入れませんか？

撮影地：大田子海岸

埼玉から西伊豆へ家族で移住をして、憧れた「のどかな自然」、「大好きな星空の見られる環境」、「かけがえのない子どもと一緒にいる時間」を手に入れることが出来たという堤圭祐さん。都会で働いていた頃は、まさか自分がわさび農家になるなんて考えてもいなかった、という堤さんに、その経緯や移住生活についてお話を伺いました。



つみ けいすけ  
**堤 圭祐** さん

出身：埼玉県富士見市  
職業：わさび農家

**田舎と呼べる場所への憧れ**

埼玉県の町で生まれ育ち、両親も埼玉、子どもの頃から田舎に帰るといふ感覚も薄く、自分のどこかに無意識に自然や田舎への強い憧れがあったのは事実だと思います。

システムエンジニア（SE）として働いていた頃に同じ職場だった妻と出会い、結婚した当時は、移住など全く考えることもなく、このまま都会で仕事を暮らしていくつもりだったのですが、妻の実家がある西伊豆町に遊びに行く機会も増え、少しずつ移住に対する意識が生まれたのかなと思います。

実際、電車はない、町へは峠を越えないと行けない、その不便さが田舎に憧れていた身からすると、中途半端に利便性が良い場所よりもこの環境が良かったのかもしれないですね。豊かな自然がとにかく近く、海も山も川もあり、食も本当に豊富だというのも魅力だと思います。

**何よりほしかった  
子どもとの時間**

朝6時の電車に乗って、横浜の職場まで通っていたSE時代。家に帰宅するのは22時を過ぎていて、子どもたちとはご飯を一緒に食べられないのが当たり前の日々。ほぼ子どもの寝顔しか見ることのできない生活でした。週末も、休みといっても仕事の時もあり、子どもとの時間が本当に取れなかったことが、子どもが好きな自分としてはとても辛かったですし、損している気分でした。

30歳を機に、SEの仕事もきつと感じるようになり、「人間らしい生活をした」、「自然の中で子育てしたい」という想いから、妻に移住について相談しました。

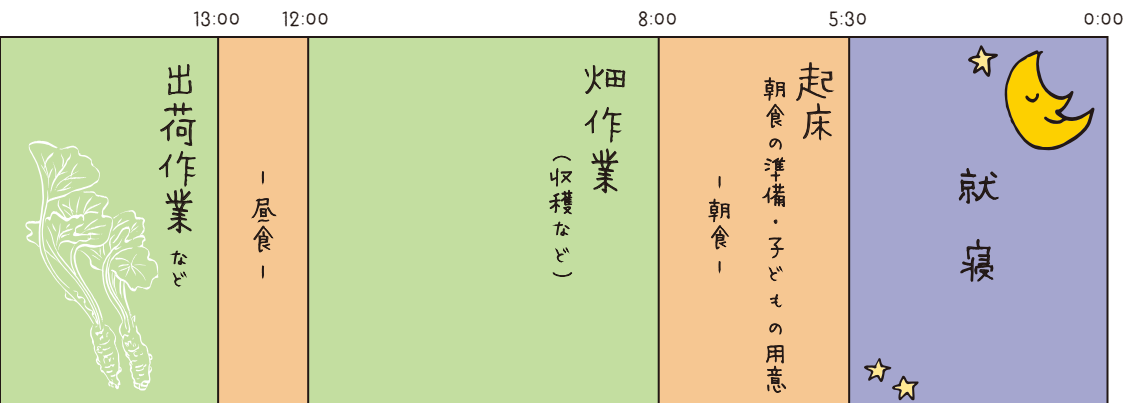


**まさかの反対**

西伊豆町出身である妻の実家は、3代続く「わさび農家」でしたが、妻は姉妹だったため、後継者がいませんでした。帰省時には、人生で初めての本わさびを食べさせてもらい、その味にとても感動しました。わさび農家のお手伝いもさせてもらう中で、農業にも興味を持ち始めました。移住の話に妻に切り出した時は、反対されました。大変で厳しい親の仕事と小さい頃から見ていたし、田舎の良いところ以上に悪いところも妻は知っていたからです。そこから、時間をかけて2人で話し合い、最終的には一緒に移住を決めましたし、妻も西伊豆で、また新たにやりたいことを見つけ中学校の教員になり、今では、妻がフルタイムで仕事をして、家事・育児は自分が農業をしながら担当しています。妻の方がバリバリ外で働きたいタイプだったので、今のバランスはともしつくりきっています。



**堤さんの1日**



## 残すものではなく 残っていくもの

まず前提として、野菜やお米の農家とは違い、わさび農家は年中収穫がある一方で、収穫の時期には縛られないので、今の暮らしが出来ているのだと思います。

実際、これまでとは違い上司も部下もおらず、何でも自由にできる反面、責任もすべて自分。もちろん、大変なこともあります。何もわからず西伊豆に来た自分にとっては、3年間をかけて3代目の義父からわさび栽培のノウハウを全てみっちり教えてもらうことが出来たのは、とてもありがたかったです。一人前にはまだまだだと感じていますが、義父さんのおかげで、昭和3年創業で100年近く歴史があるわさび農家の4代目として、自立してやれるようになりました。

義父さんに教わっている頃から、もちろん考え方の差もあり、色々とぶつかることもありました。わさび農家の仕事だけではなく、田舎の風習なども「残るものが伝統」だから、無理に残そうとする必要はないと自分は考えています。



## 思いがけない依頼

西伊豆に来てからは、SE時代の経験もスキルとして活かしています。ホームページやチラシを作ったりすることも多いです。しかし、ある日思いがけない依頼が無い込んできたのです。

「プログラミングを地域の子どもに教えてほしい」と言われた時は、とても嬉しかったですね。小学校でプログラミングの授業が必修になるタイミングで、先生が自分のSEの経歴を聞きつけ、授業を作っていく初期メンバーに呼んでくれました。今では、年に10日間くらいですが、プログラミングの授業を任されて講師をしています。前職の経験が意図していないところで、子ども教育現場で役立ち、地域に貢献できていることはとても嬉しいですし、やってきて良かったと感じています。



22:00

20:00

19:00

15:00

|           |                |           |                              |  |
|-----------|----------------|-----------|------------------------------|--|
| <p>就寝</p> | <p>家事・自由時間</p> | <p>夕食</p> | <p>子どものお迎え<br/>買い物・夕食の準備</p> |  |
|-----------|----------------|-----------|------------------------------|--|

ある日突然、Uターン移住を決心した敏彦さん。当時はまだ彼女だった渚さんに意志を伝えると同時にプロポーズ。懐かしい故郷での生活がスタートした敏彦さんと、右も左も分からぬまま移住＆新婚生活がスタートした渚さんの移住体験について聞いてみました。

やまもと としひこ  
**山本 敏彦** さん

出身：静岡県西伊豆町  
職業：理学療法士

やまもと なぎさ  
**山本 渚** さん

出身：群馬県沼田市  
職業：看護師

## 俺、西伊豆に帰ろうと思う。

西伊豆町出身で、大学進学を機に地元を離れた山本敏彦さん。理学療法士となり、東京の病院でリハビリテーションなどに従事していましたが、西伊豆町役場に勤めていた地元の先輩から、町の医療介護の現状を聞き移住を決意。同時に、当時お付き合いをしていた渚さんと結婚し、2019年3月にUターン移住。

### 敏彦さん

東京で働いている頃から、いつかは西伊豆に帰ってきたいとは考えていました。2018年のある日、地元の先輩から医療や介護の現状の話を聞き、「何か今の自分に出来ることがあるのではないかと考えるようになり、ちょうどその時に町が募集していた「地域おこし協力隊」の話を聞いたのがきっかけでした。

### 渚さん

ある日、仕事を終えて家に帰ってきたら、何の前触れもなく、「話がある。」と言って妙な面持ちで「俺、西伊豆に帰ろうと思う。」と告げられ、その時私は、「別れ話か…」とと思っていました。(笑)話を聞いていくと、「町には診療所もあるし、看護師も続けられると思うよ。」と、「結婚」と「移住」の話が突然同時に舞い降りて来ました。その当時は、あまりにも急な話に混乱していたのですが、「なんか楽しそうだなあ。そういう人生もありかなあ。」と思い、あまり深く考えず、移住を決めました。

### 西伊豆に来て

### 感じたギャップは？

### 渚さん

西伊豆には、移住・結婚を決めてから、ご両親への挨拶のタイミングで初めて来ました。その時の印象は、「めっちゃ田舎だなあ！」と。私自身も群馬県の山間部の出身で、「海のない西伊豆」みたいな地域で生まれ育ちました。なので、何となく暮らしのイメージはできました。ご近所付き合いも、東京ではお隣りさんの顔も

### 敏彦さん

知らなかったですが、こっちはいい意味で、そうはいきません。距離の近さに驚きもありましたが、野菜など色々な食材をお裾分けしてもらえるので、趣味の料理の幅は広がったと思います。一番のギャップは、東京生活でインドア派だと思っていた主人が、移住して西伊豆で暮らし始めた途端、週末になると釣りに行ったり、キャンプをしたり、鹿を捕ったり、かなりアウトドア派だったことです。(笑)

### 敏彦さん

Uターンで帰ってきたと言っても、幼少期からの同世代の友人は、西伊豆を離れてほぼ残っていないので、それはそれで寂しさを感じることもありました。ただ、今では昔とは違う「地域おこし協力隊」の仲間達や若い移住者たちとの新しいコミュニティもできて楽しく過ごせています。

### 仕事について

### 敏彦さん

移住前とは働き方が変わり、2022年3月までは「地域おこし協力隊」として、介護予防の取り組みをしながら、病院の訪問リハビリなどで働くという、地域で必要とされることに自分のスキルを活かして取り組めるのがとても大きかったです。田舎は仕事がないというけれど、職種や業種によってはものすごく人が求められていて、マッチングがうまくできていないと感じることはあります。

### 渚さん

移住前から看護師ではありませんでしたが、働き方は大きく変わりました。「都会から田舎に来たこと」、「病棟から外来になったこと」、どちらもありますが、日勤のみで規則正しい生活が送れています。西伊豆町は、本当に高齢者が多いので、そういった知識をより学んでいく必要は感じました。



## 最初は、 思い通りではなかった

渚さん

私は、1ターン移住なので、最初は新しい仕事や環境に慣れることに必死でした。それなりに、忙しく楽しく過ごしていましたが、半年くらい経ちふとした時に、夫と職場以外の人と会話をしていないことに気づきました。更に、移住して1年も経たないうちに、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、しんどい時期もありました。仕事柄、簡単に外に遊びにも行けず、近くに友達がいなかったため、最初の2年は正直辛かったです。今は、仕事生活にも慣れ、移住者たちのコミュニティなどで同年代の友達もできて、すごく充実した生活を過ごしています。実家からも離れて暮らしていますが、ご近所付き合いがあることで、いろんな地域のことを教えてもらえるし、何かあった時に頼れる安心感はすごくあり、4年近く経って、今は「移住して良かった。」と心から言えます。時間はかかりましたが、移住前に思い描いていた理想の生活は、ほぼ実現できています。



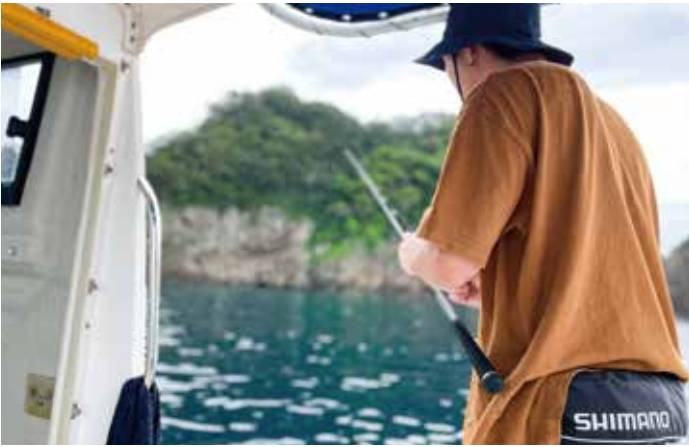
## 西伊豆のいいところ

敏彦さん

大好きな自然がたくさんあって、自分にとっては遊び場が目の前にある。そして、五感で四季を感じる事が出来るのが何よりですね。春には鳥のさえずりが聞こえ山菜や梅を採り、夏には釣りをし、秋になったら紅葉の中で拾ったクリを料理して、冬は西風が強いですが、それもまた季節を感じるものだと思います。

渚さん

海なし県出身の私からすると、普段の暮らしの中に当たり前に綺麗な海があつて、どこを切り取っても絵になることが、すごく贅沢だなと思います。



## 住んでみて 気づいたこと

渚さん

日常生活で、ものすごい不便を感じることはないですが、インドア派の自分にとっては、映画館やちょっとした娯楽施設がないことの不便さは感じます。でも、決してここにそうした人工物が出来てほしいわけではないです。1時間くらい車を走らせればそうした娯楽施設に行けるのですが、それを不便と感じる一番の理由は、「距離」や「時間」ではなく、「峠」を越えないといけないことだと思います。それが、移動に対する不便さや閉塞感を少し感じてしまう原因だと思っています。また、台風や自然災害など、暮らしに自然が近いからこそ身近に感じるようになり、天気予報や防災情報などを以前よりすごく意識するようになりました。

敏彦さん

あと鳥類が飼えるよね。

渚さん

たまたま「鳥を飼ってみたいね」と話していた時に、地元の方から鶏を譲り受けました。孵化してみようと思いつき、孵卵器を買って試しにやってみたら、見事に1羽のヒヨコが産まれたんです。かわいくてかわいくて、その1羽は、家族として今も一緒に暮らしています。これって、東京にいたら考えられないですよね。(笑)





ふくもと はつな  
福本 初夏 さん

出身：東京都立川市  
職業：地域おこし協力隊（水産業・漁業）

2021年10月から西伊豆町地域おこし協力隊に赴任し、漁業・水産業の振興として西伊豆の魚を普及させるために産地直売所の「はんばた市場」で働きながら釣りガイドとしての活動も行っている福本初夏さんにお話を伺いました。

## いいじゃん、応募しちやいなよ！

西伊豆町地域おこし協力隊に応募したきっかけは、正直なところ友人の一声でした。前職に不満があり転職を考えていたという訳でもなく、たまたまWEBサイトで西伊豆の募集を見てちよっと気になっていたら、友達と食事をしていて「いいじゃん、応募しちやいなよ！」の一言で、その場の勢いで応募しました。その後、気が付いたらとんとん拍子で話が進み、最終的には、西伊豆の海が近い口ケーションに惹かれ、地域おこし協力隊になることを決めました。

## いつの間にか 変わっていた

ずっと実家暮らしだった私は、地域おこし協力隊として西伊豆に移住すると共に、初めての一人暮らしが始まりました。あらゆるものが新鮮ではありましたが、少ししんどいことも正直ありました。今でもホームシックにはなるので、年に数回は実家に帰っています。また、自分は積極的にコミュニケーションを取る方ではないのですが、地域おこし協力隊という立場での地域の人たちとの関わりの中で、それまでは受動的だった私が、以前に比べて能動的・積極的に変わったと思います。というか、そうならざるを得なかった、というのが正しいでしょうか。（笑）

今では、「釣り」以外にも、「畑」や「狩猟」も地域のおじ様たちに教わりながらやっています。

## 時間より風と波

東京で働いていた頃は、×切や終電などの時間をすくく気にしながら生活していたのが、時間を気にしない生活になりました。東京にいた頃に比べ、趣味の釣りに断然気軽に行けるようになったことで、時間以上に風や波の情報を気にして生活するようになりました。休日に時化予報が続くと、やっぱりテンションは下がります。ただ、本当に海がすぐそばにあるので、釣りも自分が好きな釣りだけではなく、いろんな釣りを教えてもらって楽しみ方の幅が広がりました。

## 地域おこし協力隊 であるメリット

通常の移住とは違い、地域おこし協力隊として紹介されるので、近隣住民だけではなく、町中の人が自分を認識し応援してくれます。言葉を換えれば、目立って注目されてしまう、という点でもあります。地域に溶け込むという点では、地域おこし協力隊で良かったと思います。地域おこし協力隊だからこそ出来ることや、知ってもらえていることがあると感じています。また、ミッションや活動は違えど、気軽に相談することができる地域おこし協力隊のコミュニティーや、人間関係はともありがたいと感じています。



① はんばた市場にて勤務する福本さん ② 西伊豆町の移住仲間と釣りを楽しむ休日の一コマ





## Allowances/ 給与・手当など

- ・ 報酬 180,000 円/月 (活動日数が月 20 日未満の場合は 9,000 円/日の日割り計算)
- ・ 車両借上料 30,000 円/月
- ・ 通信料 (上限) 8,000 円/月
- ・ 家賃 (上限) 60,000 円/月 ※町から所有者へ直接支払い
- ・ 駐車場代 (上限) 5,000 円/月 ※住居に駐車場がない場合のみ
- ・ 身分は、町と雇用契約を結ぶ「会計年度任用職員」
- ・ 社会保険 (厚生年金、健康保険、雇用保険) に加入
- ・ 活動に伴う消耗品購入費、資格等取得のための旅費・研修等も別途支給有
- ・ 退任後、定住し起業または事業継承する場合、支援補助金有。(上限 1,000,000 円)
- ・ 転居にかかる費用、生活備品、光熱水費等は個人負担。

## Attendance/ 勤務体系

- ・ 業務は概ね月曜日から金曜日までの 5 日/週 (20 日/月)
- ・ 活動の内容によっては休日出勤もあり、その場合は平日代休 (翌月まで振り替え可)
- ・ 活動時間は休憩を除き週 35 時間 (7 時間/日)
- ・ 活動日以外で活動業務に支障がなければ兼業可 (事前に要相談)

## Job・Work/ 隊員業務

- ・ それぞれの採用テーマに沿った活動
- ・ 定例会での月次活動報告と翌月活動計画の発表
- ・ 活動計画書/業務日報 (活動報告書) の提出
- ・ 必要な研修などへの参加
- ・ 活動プロフィールの年度 1 回の更新
- ・ 活動 SNS (1 回以上/月) 協力隊 FB の更新
- ・ 年数回の KAMO'n house 管理

## Base/ 協力隊拠点

### KAMO'n house - 旧賀茂幼稚園 -

住所：静岡県賀茂郡西伊豆町安良里 100-1  
電話：0558-36-3977

WiFi、複合機、キッチン、その他備品類などシェアオフィスとして利用可。鍵はキーボックス管理。夜間利用は都度相談。



お問い合わせ先

西伊豆町役場 まちづくり課 企画調整係

住所：〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科 401-1  
電話：0558-52-1966  
メール：kikaku@town.nishiizu.lg.jp

西伊豆町地域おこし協力隊  
Facebook ページ



Check!

隊員が日々の活動を  
発信しています!

# Local community

## 地域コミュニティ

西伊豆町では、ご近所づきあいや自治会といったものだけではなく、各地区の中に様々なコミュニティーがあり、いろんな活動を行っています。ここで紹介させて頂くのはほんの一部で、地域ならではの様々なコミュニティーを探してみるのも面白いかも！

### ローカルベンチャー塾



西伊豆町では 2019 年から東京の企業と協働し、町民・町外移住者・地域おこし協力隊員等が、西伊豆で活躍する町内外の事業者や団体の活動についてや、全国の行政や民間のまちづくりの先進的な取り組みについて等を学び、交流する場として、「ローカルベンチャー塾」を開催しています。「勉強会」だけでなく、町に任用された協力隊員への各種研修、町内コンテンツの体験会、なども開催し地域人材の育成やネットワーク形成に寄与しており、ローカルベンチャー塾から「西伊豆の神—GIN—」という西伊豆オリジナル GIN も誕生しました。



①④ ローカルベンチャー塾の様子 (場所: 西伊豆町安良里 KAMO'n house)、② 西伊豆の神—GIN—、③ 参加者たちでボトルのラベルデザインを選ぶ様子

comment ローカルベンチャー塾に参加して



谷口 耕平 さん

2023年西伊豆へ移住

移住後の起業は、これからトレンドになると思い参加しました。西伊豆に価値を感じている方と縁が広がり、移住の後押しになりました。すでに移住した方のコミュニティーは安心感があり心強い存在です。

## 地域サロン



町内の各地区に気軽に立ち寄れる地域の方々の憩いの場として、ボランティアが運営する「ふれあいサロン」が地区ごとにあり、体操教室やイベントなどを実施しています。

## 自助／共助コミュニティー



西伊豆町では山と海に囲まれた地形も相まって、いざというときに自分たちで動けるように、組織として消防団活動や災害ボランティア養成の連絡会などの、自助、共助の取り組みが盛んです。特に町民の主体的な消防団活動がとても重要で、日々コミュニケーションをとりながら訓練や各種点検などを行っています。また、町や社会福祉協議会等でも、防災について学ぶための講座なども開催しています。

## まちづくり協議会



町の将来像として掲げる「“ふるさと”と言いたくなる夕陽のまち」の実現に向け、それぞれの地域に住む住民は今後どのようなまちづくりを進めて行けばよいのかを考え、町民、事業者、NPOと行政が一体となり、協働によりまちづくりを進めていくことを目指して、地域ごとに活動しています。

## まちづくり協議会 食部会



西伊豆地域に古くから伝わる多くの郷土料理や、地元の食材を活かした調理方法などが、時代の流れとともに忘れ去られていく中、西伊豆の食文化を後世に伝えていくことや、地元食材を活かした新たな料理を開発すること、更には首都圏においてPRしながら西伊豆出身者や西伊豆ファンとの交流を深めるために開催している「西伊豆町民の会」では、地元の食材で料理を作り提供するなど、様々な活動をしています。地区を越えた「食」による地域活性化を図るために活動しています。

## 宇久須美農里プロジェクト



宇久須地区では高齢化や人口減少によって地域の環境整備などが行き届かなくなるため、「美農里プロジェクト」を設立し、農業者だけでなく地元の有志も加わり、草刈りや植栽活動を行っています。

## 花の会 (花の都にしいずちょう推進協議会)



西伊豆町には「花の都にしいずちょう推進協議会」という、ボランティアで組織された花の会6団体で構成されている協議会があり、花と緑にあふれたまちづくりを推進すべく活動しています。



# Question and Answer



移住前に知っておきたい、あんなことやこんなこと。気になる疑問にお答えします。

## 生活

**Q** 買い物はどこでするのでしょうか？

**A** 町内の仁科地区にスーパーマーケット、ドラッグストア、ホームセンター、100円ショップ等があり、その他の地区にもコンビニエンスストアや商店があります。大型のショッピングモールなどへは三島や沼津（車で1時間半）に出る方が多いです。

**Q** 車は必要ですか？

**A** 車がなくてもバスが幹線沿いを通っていますが本数などが限られているため、ほとんどの方が自家用車を利用しています。ちょっとした通勤や買い物には車が必須となっています。

**Q** タイヤの履き替えは必要ですか？

**A** 町内の移動だけであれば特段必要ありませんが、年に数回だけ雪が降ることがあります。そういった日は、国道の峠道はノーマルタイヤでは走れなくなることもありますので、峠を越えての移動などが多い方は、履き替えることをお勧めします。



## 気候風土



**Q** 西伊豆の気候は？

**A** 年間を通じて温暖な海洋性気候で、平均気温は16度程と過ごやすく、冬でも雪が積もることはほとんどありません。冬季は西風が吹く日が多いので洗濯物などは注意が必要です。

**Q** 西伊豆の風土は？

**A** 日本一を宣言している夕陽はもちろんのこと、四季がはっきりとしていて秋には山が色づき、1月から早咲きの土肥桜や河津桜などが咲き、海と山の自然が作り出す景観を1年を通して楽しむことができます。



## 仕事

**Q** どのように仕事を探せますか？

**A** 企業や団体に就職する場合はハローワークや求人情報掲載ウェブサイトで見つけるのが一般的です。  
また、西伊豆町の町職員や地域おこし協力隊の求人などは、町ホームページにて確認をすることが出来ます。



## 医療機関

**Q** 町内に病院はありますか？

**A** 各地区に診療所があり、救急も受け付けている病院が仁科地区に一つあります。内科・外科・耳鼻科などを受診することができる診療所や病院はありますが、眼科・産婦人科は隣接市町へ行かないとありません。



## 住まい

**Q** 住む家などはどのように探したら良いですか？

**A** 町で空き家情報バンクを設置しています。ホームページ上からも閲覧ができますのでご覧ください。  
また、町内の不動産業者が空き家情報バンクに掲載されていない物件を保有している場合があります。空き家情報バンクページに不動産業者一覧がございますので、不動産屋へ直接お問い合わせください。

＼空き家情報バンク／



**Q** 光熱費等はどれくらいかかりますか？

**A** ガスについてはプロパンガスですので、都市部に比べると若干高めです。水道料金については水が豊かなこともあり全国平均よりかなり安いです。また、町内各所に源泉があり、地区によっては温泉を一般家庭にも引いていたり、ほぼ全家庭に温泉が引かれている地区もあります。

**Q** ごみの分別はどのようになっていますか？

**A** 大きく分けて、可燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみになり、可燃ごみは町指定のごみ袋にて地区ごと指定のごみステーションへ出させていただきます。

詳しくは「西伊豆町ごみ分別マニュアル」をご参照ください。 >>>



## 移住促進

西伊豆町を気に入ってくれた方への移住をサポートするため、町では移住促進のための支援制度としていくつかの補助金や支援金を交付しています。

(2023年2月現在)

### 空き家改修等補助金

空き家の解消を図り、移住及び定住を促進し、地域の活性化を図るため、西伊豆町空き家情報バンク登録物件の改修工事や家財処分に要する費用の2分の1、最大50万円を補助。

### 西伊豆町移住・就業支援金交付金

町内への移住・定住の促進及び中小企業等における人手不足の解消に資するため、東京圏から西伊豆町に移住して就業、起業等した者に対し、予算の範囲内において、移住・就業支援金を交付するもの。  
※交付には条件があります。

西伊豆町

## お試し移住住宅



西伊豆町には、移住を検討している人が一定期間、町での生活を体験し、地域の環境や雰囲気を感じてもらうための“西伊豆町お試し移住住宅”が一軒あります。期間は、1週間から最長1ヶ月まで借りることができます。西伊豆町への移住をお考えの方は、ぜひご利用ください！



詳細は、こちらをご確認ください！



# 移住

に関する補助金・サポート制度



# 子育て世代・教育 / 子育て支援

高齢化率県下トップの西伊豆町では、  
町の未来を担う子どもたちのための子育てや教育の支援制度があります。  
(2023年2月現在)

## すくすく医療費制度

満18歳まで入院・通院に掛かる個人負担無料。

## 公立認定こども園

保育費・給食費は無料で、仁科認定こども園は6ヶ月から、  
伊豆海認定こども園は1歳から教育・保育を実施。(7:30~18:00)



仁科認定こども園

〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科 267  
【保育部】0歳児(満6ヶ月)から小学校就学前  
【幼稚部】3歳児から小学校就学前



伊豆海認定こども園

〒410-3515 静岡県賀茂郡西伊豆町田子 1709-50  
【保育部】満1歳児から小学校就学前  
【幼稚部】3歳児から小学校就学前

## お祝い金

新生児1人につき3万円の出産祝金。

## 子育て支援センター

未就園児童の交遊スペース・情報提供や相談  
などに応じている。



## ガラスの手形

誕生記念品として町内ガラス作家さんによる  
ガラス製の手形製品。

## チャイルドシート購入補助金

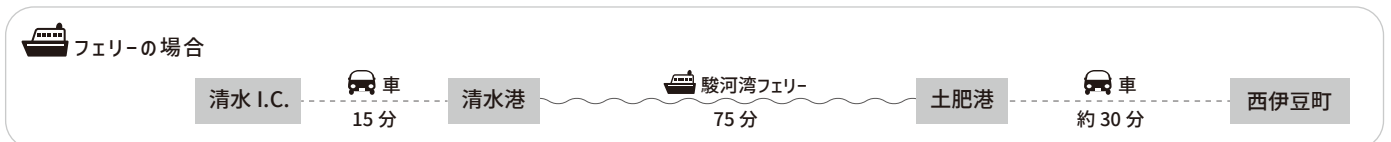
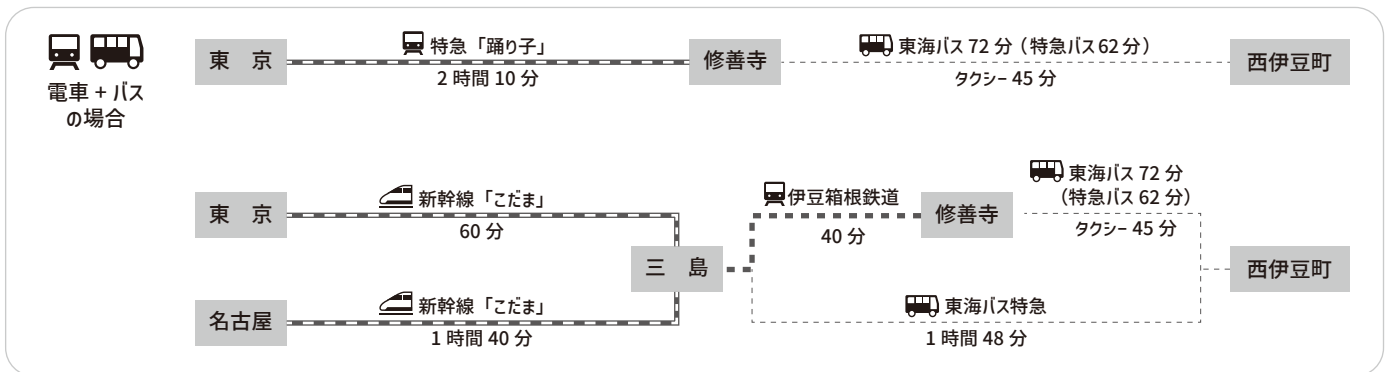
6歳未満の乳幼児用のチャイルドシートの購  
入費用の2分の1/最大1万円を上限に助成。

# Access

西伊豆町への行き方



静岡県  
西伊豆町



## すむすむ・西伊豆

静岡県西伊豆町 移住定住ガイドブック

- 発行・問い合わせ先 -

西伊豆町役場 まちづくり課 企画調整係

住所：〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科 401-1

電話：0558-52-1966

メール：kikaku@town.nishiizu.lg.jp

- 制作 -

 西伊豆プロジェクト

企画・取材・文 高井 洋季

撮影・編集・デザイン 小村 麻衣花

写真提供 (表紙) ひさき